



柏崎市 原子力防災の基本

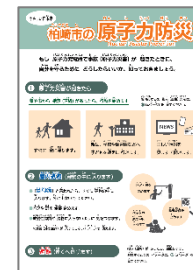
R8(2026)年8月
危機管理部
防災・原子力課
原子力安全係
TEL: 21-2323

万が一原子力災害が起きた場合に、どのような指示が出され、どのように行動すればよいかなど、知っておいていただきたいことをまとめました。

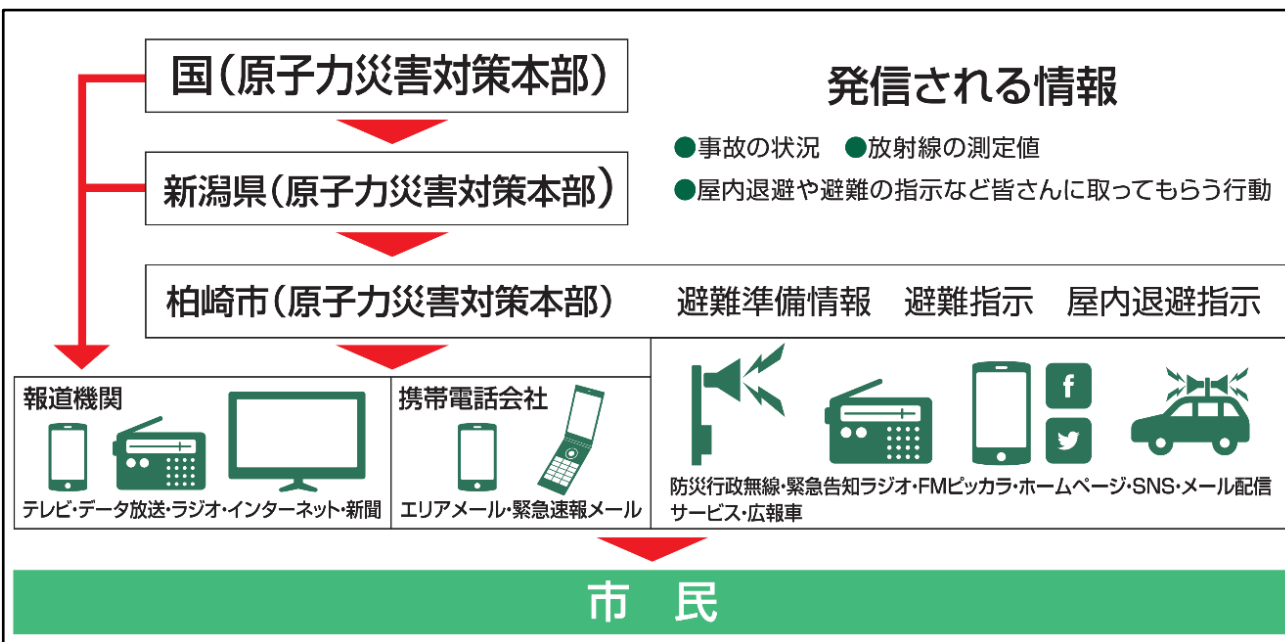
全戸配布している**防災ガイドブック原子力災害編（令和5年10月改訂版）**や **やさしい日本語 柏崎市の原子力防災パンフレット**とあわせてご確認ください。



令和5年10月
改訂版



①正しい情報を得る・指示に従う



- 原子力災害の情報は、**防災行政無線**や**緊急速報メール・エリアメール**、**広報車**などさまざまな方法でお知らせします。
- また、誤った情報が広まることもありますので、**公共機関から出される情報や指示を待つて、あせらずに落ち着いて行動することが大切です。**

- 市からの情報に基づいて行動
- うわさやデマに注意
- 隣近所と情報の確認を
- 要配慮者が情報に気づいているか確認

※ 新潟県は、平常時から柏崎刈羽原子力発電所周辺の空間放射線量や気象観測値を24時間監視しています。測定値は、新潟県ホームページ【新潟県 環境放射線監視テレメータ システム】でご覧いただけます。

③とるべき行動

市からの指示により行動開始

● 地震や発電所で事故が発生

- 震度6弱以上の地震や発電所で事故があった場合、市などからの指示により、**速やかに帰宅**しましょう。
- 保育園や学校などに通われている**お子さんの迎え**をお願いします。

● 避難行動のタイミング

市からの指示により行動開始

- PAZとUPZでは、とるべき行動が異なります。
- UPZは、まず**屋内退避**を行います。

● 要配慮者の避難（PAZ）

PAZ内の次の方は、施設敷地緊急事態で避難を開始します。

- 高齢者や障がい者などの要配慮者のうち、避難の実施に通常以上の時間がかかる方
- 妊婦、授乳婦、乳幼児、乳幼児とともに避難する必要がある方
- 安定ヨウ素剤を服用できないと医師が判断された方

発電所の状況	放射能物質放出前				放射能物質放出後
	警戒事態	施設敷地緊急事態	全面緊急事態		
PAZ	速やかに帰宅 	避難準備 	避難 	避難継続 	
	避難準備 	避難 	避難継続 	避難継続 	介助者と早めの避難
	避難準備 	避難 	避難継続 	避難継続 	
	避難準備 	避難 	避難継続 	避難継続 	
UPZ	速やかに帰宅 	屋内退避準備 	屋内退避 	屋内退避 	屋内退避または避難
	避難準備 	避難 	避難継続 	避難継続 	
	避難準備 	避難 	避難継続 	避難継続 	
	避難準備 	避難 	避難継続 	避難継続 	

④複合災害時の避難行動

まずは自身の安全確保を!!

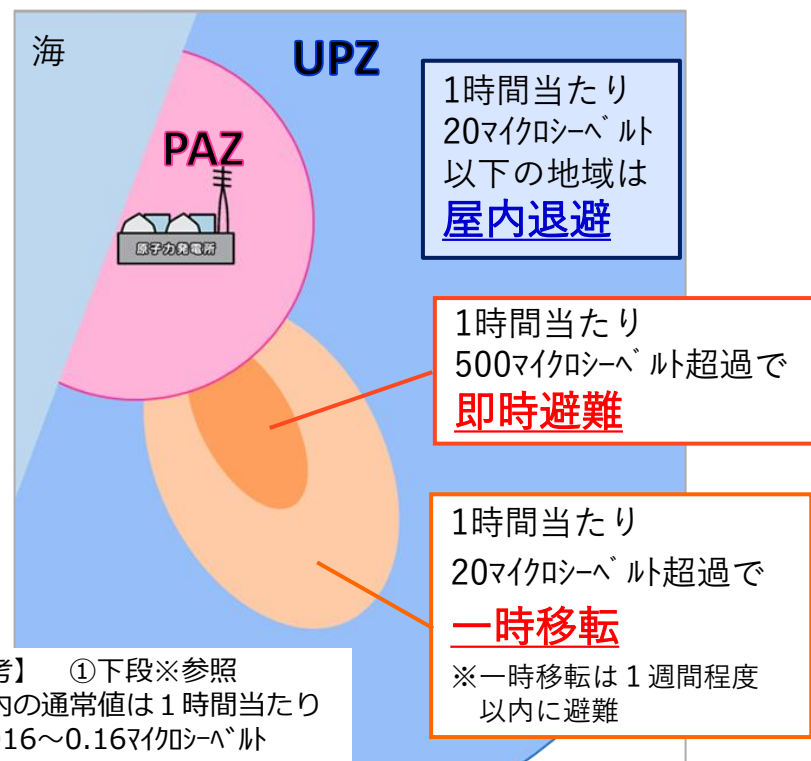
- 地震や津波、暴風雪、土砂災害などの自然災害と原子力災害の複合災害が発生したときは、**人命へのリスクが高いほうの災害への対応を優先**します。
- 自然災害の発生中は、自然災害に対する安全が確保されるまではPAZ・UPZともに屋内退避を行います。**安全に避難ができることが確認されたときに避難指示を出します。**
- 移動が難しいときは、近くの建物に退避をして、落ち着いてから帰宅してください。



⑤UPZの避難の基準

- 事態が進展して放射性物質が放出された場合、放射性プルームが通過する際に放射線量が高くなります。
- 避難・一時移転、もしくは屋内退避の継続の判断は、放射性物質放出後の緊急時モニタリングによる放射線量を基に行います。

UPZへの避難の指示は、放射線量が基準を超えた地区（コミュニティ単位）にのみ出されます。



【参考】 ①下段※参照
県内の通常値は1時間当たり
0.016～0.16マイクロシベルト

⑥屋内退避

- ・ 屋内退避は、放射線による被ばくの影響を低減させるために有効な手段です。
- ・ 放射性プルーム（放射性物質が雲状になったもの）の通過時に建物の中でやり過ごし、その後も屋内に留まります。

- ✓ 放射性物質から距離をとれる
- ✓ 家屋に一定の放射線遮へい効果
- ✓ 放射性物質の吸入を減らすことができる



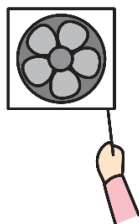
100㎡程度の一般的な家屋内では建物の気密性と遮へい効果により放射線の被ばく量は半分程度低減することがわかっています。（出典：内閣府）

● 屋内退避のポイント

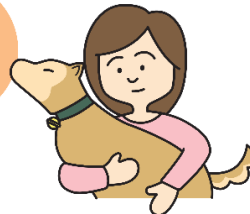
戸締りをする



換気設備を止める



ペットを家の中に入れる



情報収集する



この他にも・・・

● 食品にフタやラップをする

● 非常持ち出し品の確認など万が一に備えた準備をする

● 一般的なエアコンは外気を取り込まないので、屋内退避中でも使用できる※外気を取り込む機能のあるエアコンは、機能を切り替えるか停止する

● 屋内退避の運用

- ・ 屋内退避の指示が出ている間も生活の維持に最低限必要な一時的な外出は可能です。
- ・ 原則として、屋内退避開始3日後以降、継続が可能かを国が日々判断することになります。
- ・ 屋内退避は、新たなプルームが到来する可能性がなくなり、かつ、既に放出されたプルームが滞留していないことが確認できれば、解除されます。
- ・ 避難は様々な負担を伴うため、その判断は慎重に行うべきものですが、生活の維持が困難と国が判断する場合には、避難への切替えを行います。

⑦避難の流れ

市からの指示により避難実施

● 避難のポイント

原則 自家用車で避難

- 隣近所に声掛けし、できるだけ相乗りで
- 交通事故に注意、誘導の指示に従う
- 車のエアコンは内気循環に

自家用車で避難できない方は

バスで避難

- 隣近所に声掛け
- 決められた一時集合場所に行く

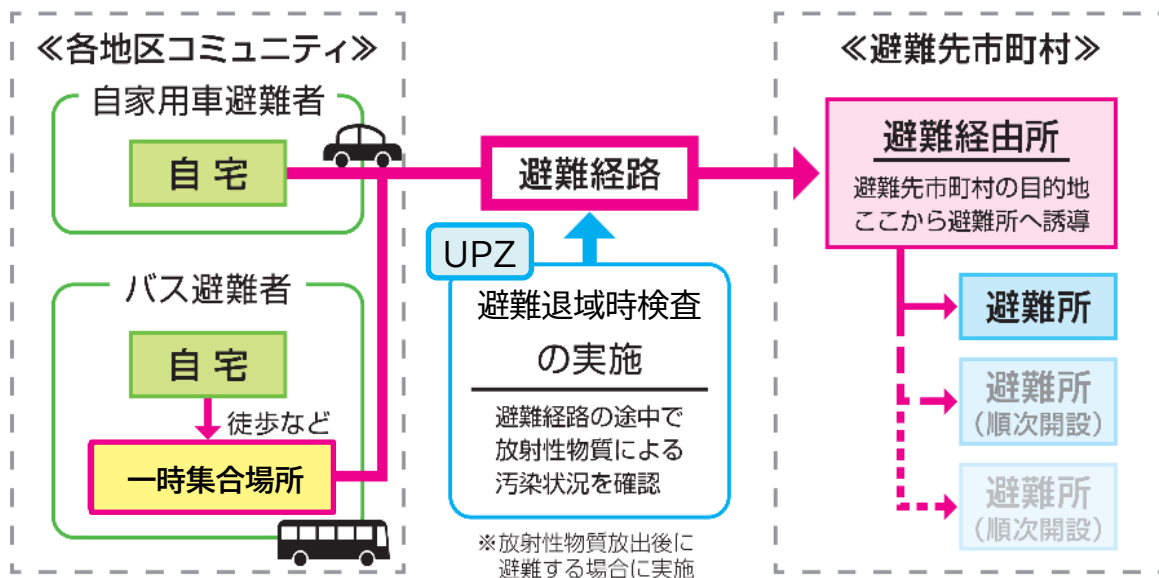
※一時集合場所は、防災ガイドブック原子力災害編
46ページ～参照

避難に支援が必要な方は

福祉車両などで避難

- 避難に車いすやストレッチャーが必要な方
- 自宅に福祉車両などを手配します

避難で目指すは 避難経路所



避難退域時検査(UPZ)

- UPZの避難・一時移転では、避難経路所の手前で避難退域時検査と簡易除染を行います。
- 避難退域時検査とは、身体表面や車両に放射性物質が付着しているかどうかを測定することです。
- 検査の結果、基準値を超える場合は簡易除染し、再度検査が実施されます。
- 避難退域時検査会場は、30km圏周辺の避難経路上に設置されます。
- 「通過証」を受け取り、避難経路所に向かいます。

⑧安定ヨウ素剤

勝手な判断をせず、
指示に従い服用する

- 安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素による甲状腺の内部被ばくのリスクを低減する薬です。
- 事前配布の他、避難や一時移転の際に緊急配布します。
- 服用のタイミングによって効果が異なります。勝手な判断による服用は避け、**市からの指示に従い服用**しましょう。
- 事前配布に関しては、新潟県安定ヨウ素剤事前配布事務局にお問い合わせください。

Tel : 0257-41-5080 (平日9時～17時)



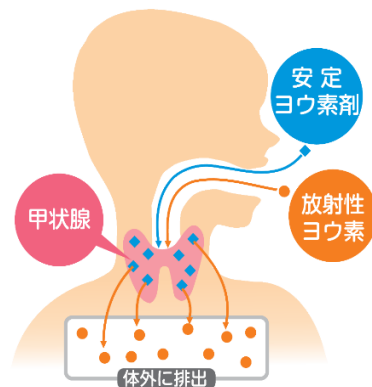
服用効果

安定ヨウ素が甲状腺にたまる

放射性ヨウ素を吸っても
甲状腺にたまらずに体外に出る

内部被ばくの低減

△放射性ヨウ素以外の放射性物質には
全く効果はありません



⑨原子力災害への備え

原子力災害時に用意するもの

- ☐ 長袖・長ズボンの衣服
- ☐ 帽子
- ☐ マスク
- ☐ ビニール手袋
- ☐ 雨具・傘
- ☐ 安定ヨウ素剤 (持っている方)

災害時を想定して日々対応を

- ☐ **車の燃料は常に半分以上入れておく**
- ☐ 車で避難の場合はなるべく乗り合いで
- ☐ 日頃から家族で災害時の行動を話し合っておく

非常用持ち出し品の準備

自然災害と同様です。

- ・貴重品
- ・日常必需品
- ・情報収集品
- ・乳児用品など



いつでも持ち出せるように
準備しておきましょう

⑩避難方面と避難経由所

まずは、避難経由所を目指しましょう

● 避難経由所

- 大きな駐車場がある目立つ施設を指定しています。
- 避難経由所では、まず、学校や保育園で避難した子どもなど、別行動だった家族と合流してください。その後、指示に従って避難所に向かいます。

対象地区	避難経由所	避難先
高浜地区、南部地区、二田地区、西山地区	①村上市民ふれあいセンター	村上市

村上方面へ避難

①

高速道(北陸道・日東道)
国道8号
国道116号など

東京電力
柏崎刈羽原子力発電所

糸魚川・妙高
上越方面へ避難

高速道(北陸道・上信越道)
国道8号など

高速道(関越道)
国道252号
国道291号など

湯沢・南魚沼方面へ避難

対象地区	避難経由所	避難先
中通地区、北条地区	①湯沢カルチャーセンター ②湯沢町公民館	湯沢町
北鯖石地区、田尻地区	③南魚沼市民会館 ④道の駅南魚沼 雪あかり	南魚沼市

①事前に家族と避難行動を話し合いましょう

家族がどこにいるのかによって避難のタイミングや避難先が変わります。

原子力災害が起きたら、家族はどう行動するのかを事前に話し合っておきましょう。

◎ご自身の家庭で避難計画を作成してみましょう。

- ・平日や休日など、様々な状況を想定して、家族内で共有してください。
- ・市ホームページにも様式を用意していますので、ぜひご活用ください。

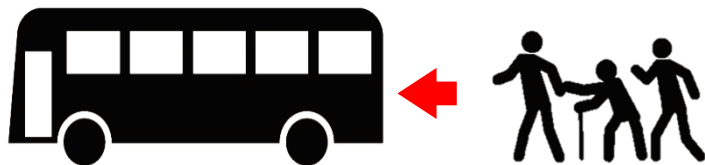


【家族避難計画（例）】自宅 **PAZ** UPZ（原則 妙高市 に避難）

家族	職場など (避難先)	警戒事態	施設敷地 緊急事態	全面 緊急事態	放射性物質 放出後	家族との 合流
父	職場：PAZ (妙高市)	子どもを迎え に行き、帰宅				
母	職場：UPZ (上越市)	帰宅				
子 (小学生)	学校：PAZ (糸魚川市)	父と一緒に 帰宅	避難準備	妙高市に 避難開始	妙高市で 避難継続	避難開始ま でに合流で きなかつた 場合は、妙 高市での合 流を目指す
子 (小学生)	学校：PAZ (糸魚川市)	父と一緒に 帰宅				

今後も防災対策の実効性向上に向けた協力をお願いします

バス避難集合場所までの避難支援



日ごろの交流をつうじた要配慮者の
実態把握



行政・公共機関の公助には限界がある

自主防災会など、できるだけの互助・共助を！